

平成16～19年度豊橋技術科学大学教育研究活性化経費評価書

外部評価者氏名：

研 究 題 目	次世代ロボットにおけるコミュニケーション機能の高度化に関する研究	
研 究 者	知識情報工学系 教授 岡田 美智男	
項 目	採点	評 価 (コメント)
研 究 の 独 創 性	5	人とロボットとのコミュニケーションにおいて、相互行為の「場」の共有に着目した独創的な研究プロジェクトである。ゴミ箱のような日常生活に根ざした生活備品にエージェントをもたせ、ソーシャルインタフェースに定義づけようとする野心的な取り組みが秀逸である。
実 用 化 へ の 可 能 性	4	多人数会話システムや、ソーシャルインタフェースなど、社会的要請が高いシステムを対象としている点で、実用化への可能性は高いと思われる。しかし、その可能性がどこまで高まっているかについての具体的な評価材料が不足している。
学 問 的 発 展 へ の 貢 献 度	4	社会的相互行為の「場」に関する研究は不足しており、その貢献度は大きい。とくに社会学や心理学と、インタフェース研究とのあいだに横たわる断絶が、この分野の研究の促進を抑制しており、より大きな貢献が期待されている。
当 初 研 究 計 画 度 の 達 成 度	4	相互行為の「場」という具象化することが困難な研究課題に対して、MawariやSocialTrashBoxなど新たな概念のインタフェースを具体的に実現している点は注目に値する。しかしネットワーク情報家電や次世代対話型カーナビゲーションなど、計画でうたっている応用先と研究との差が埋めきれてはいない。
総 合		きわめて野心的な研究プロジェクトであると考え、自動機械や意思決定支援システムが高度化する場合、これまでの制御という考え方からコミュニケーションへとその姿勢は変化しつつある。これを踏まえれば、当該研究者が取り組む次世代インタフェース研究は、多様な次世代インタフェースを統括する先駆的な研究へと発展することが期待される。

※ 1 上記の4項目について、5点満点（0～5点）で採点を行い、それぞれの評価及び総合評価について簡単にコメントを記入願います。